■シリーズ■

中学校武道 ―授業の充実に向けて― 105

複数種目授業の実践報告と課題⑲（兵法二天一流剣術・剣道）

美作市立大原中学校

岡山県美作市の大原地区は剣聖宮本武蔵生誕の地として知られ、旧跡、名所を数多く残している。近年「武蔵の里」として開発が進み、２０００年には刀の鍔をモチーフにした外観デザインの宮本武蔵顕彰武蔵武道館が建設されている。２００３年には大河ドラマ「武蔵」が放映され、全国的にも一躍脚光を浴びた。

その「武蔵の里」を眼下にした高台に美作市立大原中学校は位置する。確かな学力の育成や特色ある活動を教育方針に掲げ、１年生１クラス37人、２年生２クラス45人、３年生２クラス42人の計124名が、学業・部活動に励んでいる。２年生には、武蔵ゆかりの地として兵法二天一流剣術の授業が行われている。昨年11月15日、同校を訪ね、２年生の兵法二天一流剣術の授業と１年生の剣道の授業を取材した。

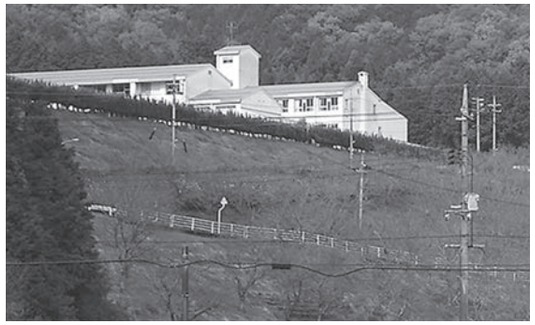
1 兵法二天一流剣術 実施の経緯と授業概要

以前、大原中学校では兵法二天一流剣術の授業を実施していたが、近年その授業は途絶えていた。前任の保健体育科教員である近田有氏が地域の特色を生かした宮本武蔵の二天一流を授業に取り入れたいと考えた。

そこで、岡山県教育委員会の事業である武道等指導充実資質向上支援事業を活用し、兵法二天一流剣術の外部指導者を要請。県教委から岡山県剣道連盟へと推薦依頼がなされ、同校に千原一夫氏が派遣された。千原一夫氏は元学校長、現在は宮本武蔵顕彰会の会長を務め、大原地区での小・中・高校生の剣道大会などでも〝実行委員長〟として活躍している。

２０１４年より二天一流の授業を開始し、今回で３年目を迎えた。近田教諭は人事異動となり、現在、外部指導者としては引き続き千原氏が、大原中学校側は井上重徳教諭が主として授業を実践している。井上教諭は剣道を専門としているが、二天一流の経験はなく、教材研究のため、千原氏のもとで週に１回、稽古をしている。

二天一流の授業は、２年生の10月第２週より始まり、11月下旬までに計10時間の授業を実施する。２クラス合同、男女共習で、指導は千原氏が行い、授業は井上教諭を中心に計２名の教諭で行っている。同時期に１年生は、剣道の授業が井上教諭を中心として実施されている。また、３年生は、学校として球技を選択している。


高台に位置する大原中学校

刀の鍔をモチーフにした外観の宮本武蔵顕彰武蔵武道館

武蔵神社にある武蔵の墓
（養子の伊織が武蔵の里に分骨したと伝えられている）

武蔵の里五輪坊の敷地内にある「青年期宮本武蔵像」
（17歳の青年期の武蔵が表現されている）

2 授業実践

(1) 兵法二天一流剣術（２年生）

外部指導者の千原氏は、３年間、生徒を指導してきて「生徒たちが意識して自主的に行動してもらいたい」と思うようになった。そこで宮本武蔵『五輪書』の「地の巻」（基礎的な心構えが示されている巻）の第八「わずかなる事にも気を付くる事」を授業の中で教える。「今の子供たちにとってこれが最も大切なことです」と千原氏は語る。指導者から授業で最も注意してほしい事項を、宮本武蔵のことばを媒体として、生徒に伝える。生徒が二天一流の授業に夢中になれば、大変説得力のある注意事項となるだろう。

実技では、打太刀と仕太刀に分かれて行う「形」を中心に行っている。太刀勢法の三本として「指先」「八相左」「受流左」と二刀の形を行っている。

２年　武道　剣道（二天一流）指導計画

1時間目　模範演武（太刀勢法　八相左・指先・受流左）、所作、歩行（つま先上がり）、太刀の持ち方、素振り
2時間目　構え（中段・八相・下段・胸構え）、太刀勢法　八相左
3時間目　太刀勢法　指先
4時間目　太刀勢法　受流左
5時間目　おさらい　太刀勢法　八相左・指先・受流左
6時間目　二刀　構え（中段・下段）、素振り
7時間目　二刀合口　切差打留
8時間目　太刀勢法　八相左・指先・受流左　復習、練習
9時間目　太刀勢法　八相左・指先・受流左　練習（ペア）
10時間目　発表会　太刀勢法　八相左・指先・受流左、まとめ　振り返り

２年生による兵法二天一流の授業

千原氏による指導

取材した当日は、８時間目の一刀の形、太刀勢法の三本の授業が行われていた。はじめに、千原氏、井上教諭で模範演武を披露。生徒は同性同士で２人一組となり、全体指導を受けている。「八相左」では、八相の構えから「打太刀」は右足から３歩進み、機を見て正面に「カー」と気合いを入れながら打ち込む。「仕太刀」は右足から３歩進み、体を右にかわし「トー」と気合いを入れて打太刀の左袈裟（ひだりけさ）を斬る。中段に構えて、残心。互いに小さく５歩下がり中段に構える。以上が一連の動作となる。

生徒たちは千原氏の指導を受けながら、反復練習を繰り返す。練習の最後にペアで打太刀、仕太刀を自由に決めて行った。千原氏は、授業において生徒が気合いを入れて発声するように注意を払っている。

授業の最後に千原氏より「皆さん、短い期間ですごくかっこよくなってきています。気合いを入れればもっとよくなります。何人かはふざけていましたが、決して木刀を振り回してはいけません。お互いに我慢してそういうことがないようにしましょう。あと２時間頑張りましょう」と終わりの挨拶があった。

最後の２時間は、本日の反復練習を行い、技の精度を上げて、最後には今まで行った技での発表会がなされたとのことだ。

「本数は多くはなく、どちらかといえば少ないけれど、生徒たちは少しずつ技に慣れていっています」と千原氏は授業の感想を述べた。

▽生徒の感想（２年女子）

「二天一流は剣道と足運びも異なり、難しいと思いました。足のさばき方も覚えるのが大変でした。剣道の方が楽しいです。二刀の形も授業で行いましたが、難しかったです。でも２本の木刀を使ったことは初めての体験でしたので、その意味では面白かったです」

(2) 剣道（１年生）

井上教諭を中心として、チームティーチングで木刀を使用した実技授業がなされていた。

１年生による剣道の授業

井上教諭による一本打ちの技の説明

井上教諭と剣道部の生徒による模範

始めにホワイトボードを使用して井上教諭より、一本打の技「面・小手・胴」と、抜き技「面―抜き胴」が説明された。武道であるなしにかかわらず、体育の授業ではより学習効果が高まるように視覚、聴覚を刺激するよう心がけている。

1年 武道 剣道（木刀による剣道 基本技稽古法）指導計画

1時間目 オリエンテーション（剣道の歴史と文化）、礼法、所作、木刀の名称と扱い方
2時間目 足捌き 新聞紙を使ったすり足練習、すり足鬼ごっこ
3時間目 剣道じゃんけん、構え（中段）、木刀による新聞斬り、素振り
4時間目 太刀さばき（ピンポン玉飛ばし）、空間打突（面・小手）
5時間目 空間打突（面・小手・胴）、リズム剣道
6時間目 木刀による剣道基本技稽古法 一本打ちの技（面・小手・胴）
7時間目 木刀による剣道基本技稽古法 抜き技（面―抜き胴）
8時間目 木刀による剣道基本技稽古法 返し技（面―返し胴）
9時間目 木刀による剣道基本技稽古法 一本打ちの技・抜き技・返し技 練習（ペア）
10時間目 発表会、まとめ 振り返り

一本打の技の実技後、フォークダンス曲「ネリーブライ」の音楽にあわせてリズム剣道が実践された。リズム剣道とは、小久保昇治氏が発案し、日本武道館と全日本剣道連盟が主催する全国剣道指導者研修会（ブロック研修会）で紹介されている。井上教諭も平成23年、広島県福山市で行われた中国ブロックの研修会を受講している。

抜き技「面―抜き胴」では生徒たちは打太刀、仕太刀の役割を交互に変えながら反復練習を繰り返した。

授業の最後に井上教諭より「抜き技は面白かったですか」と生徒に質問が投げかけられた。挙手の数は「面白かった」３人、「難しかった」約10人であった。

▽生徒の感想（１年男子）

「剣道授業では面抜き胴が難しかったです。でも来年の兵法二天一流の授業を楽しみにしています」

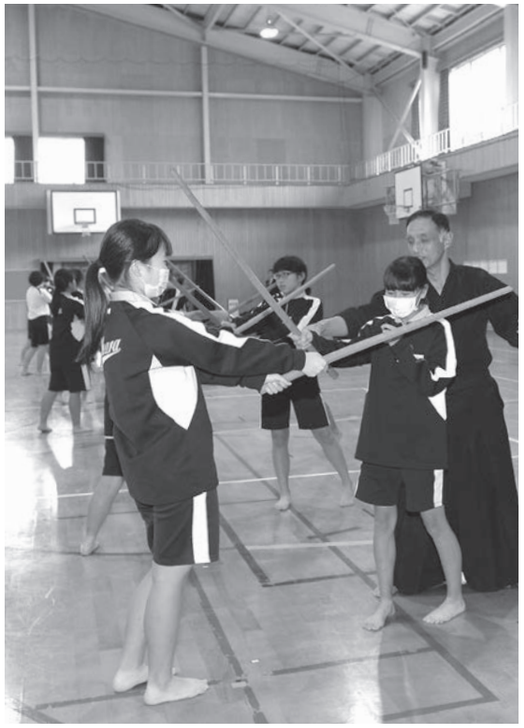
3 兵法二天一流剣術と剣道の授業を通して

井上教諭は、二天一流と剣道の授業を通して、感じることがいくつかあったと述べる。

一つは、それぞれの学校や教員の考え方はあるとは思うが、「地

域の人材活用をすれば教員の人事異動にかかわらず、継続して安定した授業を行うことができる」ということだ。自身も数年たてば、大原中を離れる時がくる。次の保健体育科教員は剣道の専門家とは限らない。しかし、千原氏がおられれば、大原中において二天一流の授業は実施できるだろう。井上教諭はこう実感したと言う。

またもう一つは、「平成27年の1年生の剣道授業では竹刀を使用した実技を行ったが、本年は主に『木刀による剣道基本技稽古法』に切り替えた」という。「やはり大原中の武道授業のゴールは2年生の兵法二天一流の形にある。そのため、1年生から木刀を実技で使用し、木刀の基本的な操作方法を学び、2年生の授業につなげた方が、より二天一流の授業の学習効果は高くなるはずだ」との考えからである。実際に、昨年木刀の授業を行っていない2年生と、木刀は危険であり刀であると常に指導している1年生では、木刀の扱い方に意識の差が出ているという。確かに取材中も木刀の扱い方の差は感じた。そして大原中では、古流の授業を実施しているため、参考となる授業教本というものはない。そのため、教員が現場にあった授業形態を手探りで考えていることが非常に良く見えてくる。今後も大原中において二天一流の授業が継続実施され、武道授業がより良いものへと展開されていくことを望みたい。


兵法二天一流剣術の授業

最後に井上教諭から授業を終えての感想が寄せられた。

「本校勤務2年目となり、2年生は従来に引き続き二天一流を、1年生は次年度を見据えた木刀による剣道基本技稽古法を取り入れた授業を展開することにした。2年生では二天一流を学ぶ中で宮本武蔵の教えを説きながら、緊張感と礼の心を持つことに主眼を置いた。1年生では、楽しさの中に礼の心と相手を尊重し感謝する気持ちを持つことを心がけた。地元の授業協力者の力を借りることで、非日常の空間を授業に取り入れることができ、緊張感ある授業展開ができたと感じている」

4 まとめ

「将来、生徒たちは大学生、社会人となり、各々、別々の地域で生活を営むようになる。美作市を出て都会に移る者も多いであろう。そんな時、『自分は岡山県美作市の出身であり、美作といえば武蔵生誕の地。中学校の武道授業ではその武蔵の兵法二天一流を学びました』このような自己紹介を行ってほしい。二天一流授業の最終到達地点はそこにあります」大原中学校の岡本浩明校長と井上教諭は口を揃えて語ってくれた。

剣聖にゆかりある地域で実施している古武道の授業は、全国的な広がりをみせることは難しいが、その地域、郷土を愛する心を育むことには適している。

これからもこの宮本武蔵生誕の地において、兵法二天一流剣術の授業が続けられ、生徒にはさらに地域に誇りを持ってもらいたい。

（本誌＝長澤克成）

大修館のロングセラー 武道関連書

初心者から有段者まで学べる！
スポーツVコース・シリーズ
柔道教室
醍醐敏郎［著］
柔道指導の第一人者の著者が、多様で複雑な柔道の技術を膨大な写真によって系統的にまとめた教程方式の技術書。
◉A5判・212頁・2色刷 本体1,200円

刊行から40年超 不朽の名著
詳説 弓道
小笠原清信、白石 暁［著］
弓道の射法に中心をおき、その技術を図と写真を用いて詳説した。弓道をより深めようとする愛好者・選手・指導者の必携書。
◉A5判・228頁 本体2,300円

二軸動作で剣道は変わる！
剣士なら知っておきたい「からだ」のこと
木寺英史、小田伸午［著］
武士の動きや相撲の立ち合いなどを例に、どのようにからだを使えば素早い打突が可能になるのか、二軸動作の理論を中心に解説。
◉B5判・104頁・2色刷 本体1,500円

武道はどのような価値を持つ文化なのか
武道論
富木謙治［著］
教育の場における武道の必要性、戦前・戦中と現在の武道の違い、武道の国際化の必要性など、国際社会における日本武道の役割を明らかにする。
◉A5判・306頁 本体2,300円

大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 ☎03-3868-2651（販売部） http://www.taishukan.co.jp ◉定価＝本体＋税

体育科教育
毎月14日発売
本体830円〈B5判〉

研究と実践の架け橋になる月刊専門誌 ■年間購読料9,856円（定期購読のお申し込みは小社ホームページで）

小・中・高・大学の体育指導者や専攻学生を主対象に、体育・スポーツの諸問題を、幅広い教育的視点から毎回特集形式で編集。学校現場の課題解決に、よりよい授業実践に、教材開発や授業研究に、最新の話題入手に、理論武装に、役立つ情報を満載しています。また、新しい学習指導要領に対応した内容も豊富です。

【最近の主な特集】
◉【学習指導要領の改訂】主体的・対話的で深い学びを体育でどう実現するか
◉学びのデジタル革命は体育をどう変えるか
◉いま、リレーの魅力を掘り下げる！
◉被災地の子どもの支援に学校体育ができること
◉保健体育とLGBTを考える
◉いま、水泳の授業をどう創るか
◉「チーム学校」と体育・保健・部活動
◉組体操・組立体操は変われるか、どう変わるべきか …ほか